

機関番号：15401  
 研究種目：基盤研究（C）  
 研究期間：2008 ～ 2010  
 課題番号：20530732  
 研究課題名（和文） 大学教育の質保証のための職員による学生への支援の在り方に関する国際比較研究  
 研究課題名（英文） An international comparative study on student support activities by non-academic staff for the purpose of quality assurance of university education  
 研究代表者  
 大場 淳（OBA JUN）  
 広島大学・高等教育研究開発センター・准教授  
 研究者番号：50335692

## 研究成果の概要（和文）：

高等教育の質保証を市場化（規制緩和、大学の自律性拡大）が進む中でのグローバル化（globalisation）への対応並びに国家統制の現れと捉えて、職員による学生への支援の在り方に関して、米国、英国、フランス等の制度・実践との比較研究を行った。その成果については、雑誌論文及び図書として刊行（日本語、英語、フランス語）したが、例えば、国全体の外部質保証よりも内部における自発的な質保証の努力、そのための組織文化づくり等が重要であることが明らかにされている。

## 研究成果の概要（英文）：

Considering that the development of quality assurance of higher education is a response to the challenge of globalisation and a form of the reinforcement of government control over universities, comparative studies have been conducted on cases of such countries as the United State, United Kingdom and France, in terms of student support activities by non-academic staff. Results of the study have been published in the forms of journal articles and books, revealing for example that the development of internal quality assurance is critically important rather than that of external quality assurance systems, for which an organisational culture favouring stakeholders' participation in the internal quality assurance process is essential.

## 交付決定額

（金額単位：円）

|         | 直接経費      | 間接経費      | 合計        |
|---------|-----------|-----------|-----------|
| 2008 年度 | 1,400,000 | 420,000   | 1,820,000 |
| 2009 年度 | 1,000,000 | 300,000   | 1,300,000 |
| 2010 年度 | 1,000,000 | 300,000   | 1,300,000 |
| 年度      |           |           |           |
| 年度      |           |           |           |
| 総計      | 3,400,000 | 1,020,000 | 4,420,000 |

研究分野：高等教育

科研費の分科・細目：教育学・教育学

キーワード：大学教育、質保証、学生支援、教職協働、大学職員

## 1. 研究開始当初の背景

近年、世界の多くの国で高等教育の大衆化・ユニバーサル化に伴って学生の多様化が進み、大学教育の在り方の見直しが求められるようになってきている。各大学では、カリキュ

ラム改革を始めとして、教員の教授能力の向上、リメディアル教育の導入といった教育改善のための活動が取り組まれ、他方においては、学生への支援拡大も課題となっている。

日本では、高等教育の大衆化を受け、1990

年代初めの大学設置基準大綱化に伴うカリキュラム改革を始め、教員の教授能力向上等を目的とするFDの普及・推進、評価制度の導入・整備等が政策的に図られてきた。これらの活動によって、例えば、従来研究偏重の傾向が強かった教員が次第に教育への関心を高め、また、教員を中心として、教育内容や教授法を改善するための様々な取組みの広がりが認められる。

しかしながら、学生の学びが更に効果的に行われるためには教員を中心とした活動の改善のみでは不十分であり、大学のあらゆる資源を活用して学びを促すような環境作りが必要である。これまでもそれに関連する提言は少なくなく、例えば、昭和33年の学徒厚生審議会答申は正課教育に加えて正課外教育の役割の重要性を強調し学生支援組織整備を促したが、提言の趣旨が十分に汲み取られることはなかった。しかし、当該答申の趣旨は、文部省の大学における学生生活の充実に関する調査研究協力者会議の平成12年の報告書「大学における学生生活の充実方策について」で継承され、同報告は、学生中心の大学づくりを目指すべきとし、学生支援の拡大や学生担当職員の専門性向上、教員と職員の連携強化等を提言している。

そして今日、環境の変化やこうした提言を背景に、学生支援に関する取組みの拡大が認められる。平成19年には、かかる取組みを支援するため文部科学省は、日本学生支援機構を実施機関として「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム(学生支援GP)」を立ち上げるに至った。同事業では、平成19年度に計70件のプログラムが採択されたが、その中には職員が重要な役割を果たしたり、あるいは教職協働が重要な要素となっていたりするものが少なくない。

## 2. 研究の目的

本研究は、学生への支援活動について、教員外職員(以下「職員」)に着目して、多様化する学生の学びへの支援の在り方について検討するものである。具体的な検討対象は、学内における関係職員の位置付けとその役割、求められるコンピテンシー、教員との協働の在り方等である。本研究が対象とする学生の学びへの支援とは、単に学生が授業を中心とする正課における学習活動への支援だけではなく、課外活動等授業以外の活動における全ての学習活動にかかる支援活動を含むものである。今日、入学後に大学生活に不適応を起こす学生は少なくなく、また、企業の新卒者採用においても大学の専門知識は必ずしも重視されておらず、大学全体の資源活用しつつ学生の環境適応能力やエンプロイアビリティを高めることが課題となっている。本研究はそうした諸課題の解決方策へ

の示唆を学生の学びへの支援という観点から得ることを試みるものである。

## 3. 研究の方法

本研究では、上に述べたような学生支援の拡大や実践の積み重ねを背景としつつ、学生支援に関する理論研究を深め、学生支援活動の全体像の把握に努めるとともに、その分析から、学生支援担当職員が果たすべき役割、職員に求められるコンピテンシー、学生支援組織の在り方、教職協働の進め方等について検討する。また、学生が支援を必要とする状況は諸外国(特に高等教育大衆化の進んだ先進国)においても同様であり、国際比較を進めながら、我が国の学生支援の在り方について知見を得ることも試みる。更に今日、欧州におけるボローニャ・プロセスに見られるように、大学教育改善のために学生の参加が求められるようになってきているが、そうした学生参加が有益なものとなるためには大学側の支援が不可欠とされると言われる。本研究は、こうした学生参加への職員による支援についても検討の対象とする。

具体的には国内における訪問調査、文献調査等によって、学生支援にかかる理論的研究、学生支援活動の内容、組織の在り方、職員の養成(初期・継続)等についての調査研究を行う。海外に関しては、訪問調査、文献調査によって行い、インターネットによる情報収集にも努める。特に、訪問調査(国内外)を行うに際しては、文献やインターネットを通じた事前調査を行い、効率よく調査を行うこととする。更に、海外との比較研究を進めるため、海外の研究者との共同著作も行う。

## 4. 研究成果

平成20(2008)年度は、本年度は、研究課題に沿って、先行文献研究、国内外における調査、研究会における発表やそれに伴う意見交換並びに情報収集、各種出版活動、研究協議等を行った。出版活動としては、広島大学高等教育研究開発センターの高等教育研究叢書105として『大学職員の開発一専門職化をめぐる一』を刊行した(編者:大場)。また、同104として刊行した『フランスの大学評価』(編者:大場)においても、フランスの大学教育の質保証についての論考が収録されている。その他、複数の雑誌や著書に本研究に関する論考を寄稿した。国際会議・海外調査については、山本が、平成20年9月7日～8日開催のOECD/IMHE(Institutional Management for Higher Education)総会に出席し、各国の高等教育マネジメントの現状と課題について情報収集、意見交換を行った。また、大場が、平成21年3月、フランスにおいて、大学(パリ第9大学等)、質保証機関(研究・高等教育評価

機関 (AERES))、その他の機関を訪問し、聴き取り調査、資料収集、共同著作に関する打合せなどを行った。また、日本に滞在していたパリ第10大学の教育学教育研究単位(UFR)教授マリ=フランソワーズ・ファブ=ボネ氏を招聘し、フランスの質保証制度等についての研究会を開催するとともに、共同著作についての打合せを行った。

平成21(2009)年度は、前年度に引き続いて、研究課題に沿って、先行文献研究、国内外における調査、研究会における発表やそれに伴う意見交換並びに情報収集、各種出版活動、研究協議等を行った。今年度は、質保証と密接に関係する「市場化」にも焦点を当てて研究を進めた。出版活動としては、複数の雑誌や著書に本研究に関する論考を寄稿した。具体的には、著書としては、日本教育行政学会研究推進委員会編『学校と大学のガバナンス改革』教育開発研究所に「ボローニャ・プロセスと学生参加」が、C. Whitchurch & G. Gordon (Eds.), *Academic and Professional Identities in Higher Education: The Challenges of a Diversifying Workforce*. New York: Routledge. に “Managing academic and professional careers in Japan” が、羽田貴史・米澤彰純・杉本和弘編『高等教育質保証の国際比較』東信堂に「フランスにおける高等教育の質保証」が、それぞれ収録された。学会発表については、日仏教育学会で、大学教育の質保証等に言及しつつ、フランスの大学改革について報告を行った。国際会議・海外調査については、平成22年3月に、英国(ブリストル、オクスフォード、ロンドン)及フランス(パリ)にて調査を行い、現地の大学で情報収集を行うとともに、関連分野の研究に従事する研究者との情報交換を行った。なお、英国ではブリストル大学において、同教育学研究科の主催で日本の大学改革についてのセミナー講師を務めた。

平成22(2010)年度は、研究課題に沿って、引き続いて先行文献研究、国内外における調査、研究会における発表やそれに伴う意見交換並びに情報収集、各種出版活動、研究協議等を行った。本年度は、特に大学のガバナンスとの関係に重点を置いて研究を行った。出版活動としては、ガバナンスを対象とした論考を複数の雑誌論文・図書(分担執筆)として出版した。具体的には、大場淳(2011)「大学のガバナンス改革：組織文化とリーダーシップを巡って」『名古屋高等教育研究』11, 253-272頁やOba, J. (2010). *Governance of the Incorporated Japanese National Universities*. In K. H. Mok (Ed.), *The Search for New Governance of Higher Education in Asia* (pp 85-102). New York: Palgrave Macmillanがある。学会発表につい

ては、平成23年1月に、フランスの高等教育についての研究者組織である RESUP (Réseau d'Etude sur l'Enseignement Supérieur) で、日本の国立大学のガバナンス問題を中心として報告を行った。また、研究協力者の支援を得て、米国の専門職、短期大学の事務職員の開発や専門職化、教職協働等についての研究にも取り組んだ。

以上の研究成果については、雑誌論文投稿、学会発表、図書執筆等を通して行ったところであるが、更に出版物(広島大学高等教育研究開発センター高等教育研究叢書)としてとりまとめることを計画している。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 10 件)

1. 大場淳, 大学のガバナンス改革 ―組織文化とリーダーシップを巡って―, 名古屋高等教育研究, 査読有, 11, 2011, 253-272.
2. 大場淳, 知識社会と大学: フランスにおける学士後教育改革を巡って, 広島大学大学院教育学研究科紀要第三部, 査読無, 59, 2010, 175-184.
3. Oba, Jun, L'autonomisation des universités nationales au Japon: l'impact de la réforme de 2004, *Ebisu*, 査読有, 43, 2010, 83-120.
4. 大場淳, フランスの大学改革―サルコジ=フィヨン政権下での改革を中心に―, 大学論集, 査読有, 41, 2009, 59-77.
5. 大場淳, フランスにおける博士教育制度の改革―LMD 導入と博士学院の整備をめぐって―, 広島大学大学院教育学研究科紀要第三部, 査読無, 58, 2009, 283-292.
6. 大場淳, フランスの大学改革, 大学マネジメント, 査読無, 5(4), 2009, 6-10.
7. 大場淳, 日本における高等教育の市場化, 教育学研究, 査読有, 76(2), 2009, 185-196.
8. 大場淳, ボローニャ・プロセスと学生参加―質保証活動を中心に―, 日本教育行政学会年報, 査読有, 34, 2008, 218-221.
9. 山本眞一, 組織力強化のための管理職の役割～大学のさらなる発展のために～, 私学経営, 査読無, 403, 2008, 58-64.
10. 大場淳, フランスにおける高等教育の質保証―直接統制から間接統制へ―, フランス教育学会紀要, 査読有, 20, 2008, 15-23.

[学会発表] (計 4 件)

1. Oba, Jun, *La réforme des universités nationales au Japon et ses résultats* –

L'élargissement de l'autonomie et l'évaluation a posteriori -, Colloque international RESUP 2011, 27/1/2011, Sciences-Po, Paris, France.

2. 大場淳, フランスの大学と高等教育の市場化, 日仏教育学会研究大会, 2009年10月11日, 東京理科大学森戸記念会館.
3. 大場淳, フランスの高等教育の市場化と質保証, フランス教育学会, 2008年9月21日, 中央大学駿河台記念館.
4. 山本眞一, 大学事務職員の能力開発に関する研究, 日本教育社会学会, 2008年9月20日, 上越教育大学.

[図書] (計 6 件)

1. Oba, Jun et al., Palgrave Macmillan, *The Search for New Governance of Higher Education in Asia*, 2010, 220 (85-102).
2. 日本教育行政学会研究推進委員会編, 教育開発研究所, 学校と大学のガバナンス改革, 2009, 241 (224-241).
3. C. Whitchurch & G. Gordon (ed), Routledge, *Academic and Professional Identities in Higher Education: The Challenges of a Diversifying Workforce*, 2009, 207 (99-101).
4. 羽田貴史・米澤彰純・杉本和弘編, 東信堂, 高等教育質保証の国際比較, 2009, 316 (177-195).
5. 大場淳編, 広島大学高等教育研究開発センター (高等教育研究叢書 104), フランスの大学評価, 2009, 128.
6. 大場淳編, 広島大学高等教育研究開発センター (高等教育研究叢書 105), 大学職員の開発—専門職化をめぐる—, 2009, 114.

[その他]

ホームページ等

<http://home.hiroshima-u.ac.jp/oba/>

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

大場 淳 (OBA JUN)

広島大学・高等教育研究開発センター・准教授

研究者番号：50335692

### (2) 研究分担者

### (3) 連携研究者

金子 勉 (KANEKO TSUTOMU)

京都大学・大学院教育学研究科・准教授

研究者番号：40263743

林 一夫 (HAYASHI KAZUO)

独立行政法人メディア教育開発センター・研究開発部・教授

研究者番号：50392288

山野井 敦徳

くらしき作陽大学・子ども教育学部・教授

研究者番号：80019067

山本 眞一 (YAMAMOTO SHINICHI)

広島大学・高等教育研究開発センター・教授

研究者番号：10220469

(H20：研究分担者)

### (4) 研究協力者

芦沢 真吾 (ASHIZAWA SHINGO)

明治大学・国際連携機構・特任教授

清水 栄子 (SHIMIZU EIKO)

阿南工業高等専門学校・大学教育推進プログラム・特命講師

(広島大学・大学院教育学研究科・博士課程後期)

土井 雅順 (DOI MASANOBU)

岩国短期大学・学生支援課・職員

(広島大学・大学院教育学研究科・博士課程前期)

林 一夫 (HAYASHI KAZUO)

文部科学省・高等教育局企画課・大学情報分析官